

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に加えて、事業所独自の理念として、地域の方々と交流を持ちながらグループホームの利用者の生活を大切にする理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	フロアに理念を掲示し、職員の名札の裏にも理念を書き、地域で支えられて生きる事の大切さを、ミーティングや研修等で話し、利用者への尊敬について話あっている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域密着型グループホームの説明を契約時に行っている。又地域にパンフレットや機関誌など配布し理解して頂ける様努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	定期的に行われているケアハウスと合同の、健康体操や絵手紙教室を通して交流を持ったり、散歩に出かけた時は近所の方々と挨拶や会話も楽しくはずんでいる。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアや実習生の受入れ等、地域の行事(盆踊りやホタル狩り)に参加し交流を図っている。当施設の行事(文化祭・餅つき等)には地域の方々と交流を図っている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	新聞のチラシでくず入れ等を作り、特別養護老人ホームやショートステイに持って行くなど交流を図っている。又、近くの保育園に、こどもの日のプレゼント等を作って持って行き、交流を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの質の向上の為に、全職員で取り組んでいる。1つ1つの項目を自己評価し、前回の評価結果と現在の評価の違いを点検し改善している。又、現状と今後の課題などの理解と改善にも努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて、2ヶ月に1回運営推進委員会議を行い、利用者の近況やグループホームの活動等の報告や、意見交換等を行っている。又評価についても助言をもらっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から運営推進会議に出席してもらい意見や助言をもらっている。又在宅介護の会からも出席してもらい情報提供の共有も行っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への積極的な参加と、事業所内研修を行い、学ぶ機会を確保している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	松快園開始当初より虐待は絶対しない事が徹底しており、高齢者虐待防止関連法について勉強会やミーティングを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書及び重要事項説明書を解りやすく説明し、理解納得して頂いている。契約の追加(加算)についても充分説明を行い納得して頂いている。解約時は家族と充分話し合い退去先の紹介、支援を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者とその家族に参加して頂き、意見の出やすい雰囲気作りをしている。日常の会話の中から意見や苦情があった時は職員間で検討したり、改善したりしている。又苦情窓口の公開をし外部者へ表せる機会も設けている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話による連絡や家族の面会があった時はグループホームでの生活や受診結果等近況を伝えている。又預かり金について使途の確認や出納帳を見て頂き報告している。暑中見舞いや年賀状等職員が支援し利用者に自由に書いて頂いている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見や要望があった時は速やかに検討し、結果を報告している。又事業所の玄関先には苦情相談の箱を設け、書面や掲示にて家族へ回答し運営に反映させる取り組みがある。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職種会議、勉強会、毎日のミーティングで職員の意見や提案を聴き、職員の向上心へつなげている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の配置は出来ており職員の急な休みや行事等には、余裕を持った人員確保は出来ている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係にある職員の離職は最小限に留めており、異動もないようにしている。代わる場合は引き継ぎ期間を充分にとり利用者に慣れて頂くようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては年齢や性別、経験資格の有無より、本人の意欲と適性を重視している。職員の得意分野で能力発揮する場面を設ける等、研修の参加や資格取得、休暇の調整などにも配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修報告会を通じて人権教育、啓発活動に取り組んでいる。利用者に対しての人権尊重は、常に意識し日々の言葉使いや態度で接している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内や外部研修に積極的に参加し、勉強会や研修報告会を実施し、新しい知識の導入と情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会の会員となり、全体研修会やブロック研修会、懇親会に参加し、管理者・職員ともに交流の機会を確保している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が交代で利用者から離れる時間を作っている。少人数の職場内で、気軽に相談できるように取り組んでいる。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人全体で年間を通じて研修会をおこなったり、各部署の勉強会に参加し発表できる場を設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員とのかかわりを多く持ち、本人や家族の意見を十分に聴き、グループホームの生活について説明している。生活歴や心身の状況を聴き、本人の思いに向き合い信頼関係が築けるよう支援している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いとは別に、利用されるまでの生活や介護の状況をゆっくり聴き、安心して頂けるよう努力している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入所申込みに来られた時は、実情や要望をよく聴き、他のサービス利用も説明し対応に努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族の面談や事業所の見学と徐々に馴染んで頂くよう配慮している。行事案内を出し一緒に参加していただく中で係わりを多く持ち、精神的な安定が得られるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や裁縫で助言受けたり、昔話を通して人生経験を学んでいる。歌、習字、塗り絵、絵手紙など利用者にはそれぞれの得意分野があり、楽しい時間の共有と相互の存在を支えあう関係を大切にしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会等の行事には、ともに参加していただいたり、情報交換の場として家族との関係作りを築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事業所便りで利用者の出来事やコメントを記述して伝えたり、行事への参加の機会を持っている。遠くに住んでいる家族へ年賀状を書いて出すことで、本人とのつながりや絆が深まっていけるように支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブや買い物の際に立ち寄ったり、他事業所におられる知人に会いに行ったりして交流している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者とのかわりの中で、世話役の方に力を発揮してもらう場面を作り、できない所をサポートし、支え合いを引き出せるように支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	日々の生活で培われた関係を大切にしていけるよう、面会に行ったり、事業所の行事案内をして、来て頂けるよう交流をもっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と常に対話をし、1人ひとりの思いや希望の把握に努めている。又少しの変化も見逃さないよう観察し、職員間で共有して思いをくみ取り実現出来る様支援している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族、利用者から生活歴・職歴・生活環境等を聴き、経過の把握に努めている。馴染みの物も持って来て頂き自分らしく暮らしていけるよう支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを把握し、毎日の暮らしの中から出来る力、わかる力を発見しミーティングで把握した事を介護へ活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を聴きその人らしく暮らし続けていけるよう職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者・家族の要望や利用者の変化に応じて介護計画の見直しを行い、話し合いをし、実践的な対応が出来る様努めている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践・気づきを記録し変化があった場合は、毎日の申し送りでも伝え、職員間の情報の共有を行い、介護計画の見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を活かして、健康チェックや相談に応じてもらい、医療処置を受けながら生活の継続をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館に月2回程行き、絵本・紙芝居を利用し楽しんでいる。体操・絵手紙・傾聴ボランティア等の方達が訪問して下さり、協力して下さっている。又近隣の中学生が体験学習に来て老人福祉を学んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネージャーを通して入所前より連絡を取り合っている。又必要に応じてホームヘルパーを利用したり、入所前にショートステイ・介護老人保健施設に入所して頂く事もある。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して下さる様その都度依頼している。周辺情報等の情報交換をし、協力関係を築き個別支援につなげている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同施設内に吉田中央クリニックがあり、かかりつけ医として入所の際利用者・家族に説明し納得して頂き、支援関係を築いている。又利用者・家族の希望、利用者の状況に応じて、他の病院に受診されている方もいる。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所後の利用者の状況に応じ、認知症の専門医を受診する様情報提供し、勧めている。又職員も利用者の状況を見極め認知症専門医にも相談をしている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	吉田中央クリニックと医療連携体制をとっており、1週間に1度看護職員に状態観察をしてもらい相談にのってもらいながら健康管理に努めている。又急な発熱等があった時は、直ぐに連絡がとれるようにしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院の際は、かかりつけ医より情報提供をもらい、必ず職員が家族と一緒に付き添い医療機関とケアについて話し合いをしている。又退院後の計画においては家族・医療機関と相談し今後のケアに活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今現在、重度化した利用者はいないが、同施設のクリニックと医療連携をとっており、必要に応じ出来るだけ早期に本人・家族の意向を確認しながら医療機関・職員と話し合う体制を整えている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化・終末期における利用者が安心してその人らしく生きれるよう、家族・医療機関・職員が連携を図りながら、チームで支援出来る様方針を話し合っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が別の居所へ移り住む際は本人・家族・職員で充分話し合いをし、移り住む先の関係者に支援状況等の情報提供をプライバシーに配慮して行う。移り先に他利用者と訪問し、環境の変化へのダメージを防ぐ事に努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりが何を誇りとしているか知り、それを尊重する言葉かけをしている。プライバシーを尊重しながら言葉かけ誘導に配慮し、個人情報については守秘義務を守っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の色々な場面で、自己決定の働きかけを心懸けている。本人が表現出来ない所は日頃の表情や言動等観察し、希望や好みを把握している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、身体レベルに合わせた散歩や買い物等の外出を支援し、柔軟に対応している。家族の面会時はゆっくり部屋で会話出来る様配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみは本人の好みや持てる力に合わせ声掛けし、さりげない支援をしている。同施設内の理美容室を利用し、希望の髪形にしている。馴染みの美容院に家族が同行している利用者もいる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜はレストランで作ってもらうが、副菜・おやつは利用者・職員と一緒に作っている。月に2回調理の日を設け買い物と調理を楽しんで。又ドライブや散歩の時間にお弁当やおやつ持参し、食べたりしている。盛付けや後方付けは利用者と職員と一緒にやっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	月に2度飲酒の日を設けている。希望される方は好みの物を購入しておられ就寝前に少量嗜まれている。おやつは職員と一緒に好きな物を買に行き、毎日のお茶の時間に楽しんでいる。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせ失敗のないようさりげない声でかけをし、なるべく他に分からない様努力している。失敗した時は本人の気持ちを気遣いながら手早く周囲に分からない様対応している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、何時でも入れる様になっている。日曜日にはケアハウスの広々したお風呂も利用出来る。入浴拒否の方には無理じいせず、声かけに工夫をし本人の意思を待つようになっている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンや生活リズムを把握し、安心して気持ち良く休息したり眠れる様支援している。眠れない方には飲み物を飲んで頂いたり会話をしたり、又、添い寝をしたりその方が安心して頂ける様な支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの培ってきた経験を活かし、料理など家事を分担し自然と役割分担が出来る。得意な事・絵画・習字・縫物・おり紙等の支援をしたり、共通して歌が好きなのでよく歌を唄っている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に何度も利用者と一緒にショッピングやドライブに出かけ、小遣いとして小銭入れを一人ひとり所持し、力に応じて買い物を楽しめる支援をしている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じて頂ける様晴天の日は積極的に出掛けている。歩行状態に合わせて歩くペースを合わせ、歩行困難者には車椅子を利用している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族には本人の希望を伝え、外出して頂ける機会を相談しながら作っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や用事がある時はプライバシーに配慮しながら、電話や手紙のやり取りが出来る様支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人がいつでも訪問しやすいように雰囲気作りをしている。又、訪問された時はお茶を出し、ゆっくりくつろげる場所を提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が身体拘束禁止を挙げておりそれに伴い全職員が研修を受け、身体拘束をしない事を徹底している。又拘束禁止についての研修も行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の方がご自分の家でくつろいでいる様な気持ちで過ごして頂くためにも鍵はかけていない。利用者の行動を職員同士で見守り、帰宅願望のある方については気分転換に会話をしたり、歌を唄ったり散歩に出かけたりしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は全体が見渡せる場所にて見守りを行い、その場を離れる時は職員同士で連携をとっている。利用者のプライバシーを配慮しながら所在を把握し、安全確認をしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤・洗剤・刃物等は決まった場所に保管し、刃物等は使用時職員が側につき職員の見守りのもと危険のないように気をつけている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・ヒヤリ・ハットが発生した時は記録し全職員で検討・反省を行い今後の事故防止に努めている。又利用者がどんな時事故になりやすいか検討し、事故防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が応急手当に関して定期的に訓練を行っている。急変時の対応・夜間等の緊急連絡網による応援体制も整備し、定期的に確認している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全職員で事業所内の避難訓練を実施している。他事業所の避難訓練にも参加し、消防署・消防団と地域住民による訓練で、災害時の避難方法を身につけ、地域の方々との連携もできている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの状態を把握し、リスクの予測がつく方に対しては、家族と話し合いを持ち、抑圧のない生活の大切さを踏まえた対応策を考え、納得して頂きながら支援している。又、状況変化に応じ見直しをおこなっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病や留意事項を把握し、普段の様子を知ることで変化や異常の発見に努めると同時に兆候に気付いた時は、情報を共有し様子観察や受診に結びつけている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の名前・用法・用量・副作用等の記録をファイルしており、いつでも見て確認ができるようにしている。又、変化のあった時は医師、家族に報告し、記録をとっている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起床時のお白湯などの水分補給や散歩など行い、食事、おやつなどにも工夫をして、自然排便ができるよう取り組んでいる。一人ひとりの排泄記録をチェックし、個別に生活の中で工夫をこらしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、誘導し充分にできない利用者には職員が介助して清潔保持に努めている。夜間は職員が消毒するために義歯を預かっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を記録し、一日の摂取量を把握し不足のないように細めに声かけしている。食事の献立は栄養士によって作られているが、一人ひとりに食べたい物を聞き全員で調理を行う日も設けている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定期的に研修会を行い、新しい情報知識を得ている。地域の感染症発生状況に応じ、職員に周知し感染症マニュアルに沿って、予防対策等をおこなっている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や台所用品は洗浄後乾燥機にかけて熱処理をしている。台所の衛生管理チェック表に基き、毎日又は随時、殺菌消毒などして清潔に保てるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関やベランダには季節の花や野菜を植え、玄関先の談話室にも季節感ある作品飾り、誰でも入りやすい雰囲気を作っている。又、エレベーター前の長椅子は、出入りの時の安全の場の確保にもなっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節に合った創作品を飾り、床の間には季節の花を生けて季節感を取り入れている。又、時間によってカーテンを引いたりブラインドを降ろしたり、心地よく過ごせる様配慮している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が何人かで談話室で会話したり、ダイルームの炬燵やソファでくつろいだり、自分の居場所としてでも、1人で談話室で過ごせる様工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具や寝具等を持って来て頂き、安心した生活が出来る様配慮している。又家族の写真、誕生カード等飾り居心地よく過ごせる様工夫している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日に何回か部屋の換気を行い、常に匂いや室温に配慮している。利用者一人ひとりの状態に合わせた対応をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物干し台や調理台は利用者の使いやすい高さになっている。ダイルーム・廊下にはカーペットを使用している為、履物を使用せず歩行時の転倒防止になっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口にかけてある暖簾は目印になっており、表札を掛け混乱や失敗を防いでいる。又トイレ、浴室も分かり易く場所を表示したり暖簾をかけたりしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには草花や野菜を植え、利用者が水やりを楽しんだり、収穫の喜びを味わえるようにしている。洗濯物を職員と共に干したり取り込んだり布団を干したり、活動できるようになっている。屋上では安全な歩行ができ日光浴を楽しむ事ができる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・法人が接遇を外部講師へ依頼して接遇研修を行い、福祉職員としての心構えや、高齢者へ対しての接し方を学んでいる。高齢者への尊厳を大切にし、笑顔や挨拶・身だしなみ等の基本的なマナーの実践に向けて、日々研鑽している。当グループホームでは本人の希望や願いを実践できるように支援し、利用者の得意とする事や出来る事を生活の中に取り入れ、生き生きとした生活が出来るように支援している。

・当ホームはケアハウスの10階にあり、リビング・掘炬燵の部屋から大きなガラス張りを通して180度視界が広がり、四季の移り変わりを感じる事が出来る。又、建物自体が色々な変化に富んだ造りになっており、神社や噴水のある公園があり、そこでおやつを頂いたり唄ったり、ゆったりとした時間の流れを感じながら過ごす事が出来る。

・松快園全体の大掛かりな文化祭には、グループホームも色々な作品を制作し展示しており、それらの作品をグループホーム協議会の作品展にも出品している。

・複合施設であり、他事業所の行事にも気軽に参加でき、利用者との交流を図っている。又、緊急事態(体調急変・火災)等が発生した時は、他の事業所からの応援体制も整っている。